

実践報告書

- 記入日：2024年2月20日
- タイトル：「Yomokka!」を用いた「データの活用」領域における実践について
- ご所属：埼玉大学教育学部附属小学校
- お氏名：藤田 明人（ふじた あきと）
- 略歴：問題を見いだす児童を育成する算数科教育についての研究

以下、報告書（写真や図を使用して作成ください）

1. 実践の背景:

- なぜ企業やNPOとの協働を取り入れることにしたのか、その動機や背景および、協働的な学びの中で、どのような学びが生まれると考えているのかを記載してください。

現代は、Volatility（変動性）Uncertainty（不確実性）Complexity（複雑性）Ambiguity（曖昧性）というVUCAの時代と言われている。このような時代を生きる児童に対して、企業やNPOとの協働を行っていくことは、様々な大人からの専門的な知識を得られる機会となります。また、大人から得られた専門的な知識は、持続可能な社会の作り手となる力を育むことにつながると考えます。そこで、教員だけでなく、様々な大人とつながる機会を設定した授業実践を行っていきたいと考えました。

2. 実践の目的:

- 実践を通じて何を達成しようとしたのか、教師と児童生徒の視点での目的を記載してください。

児童が自分で問いや問題を見だし、解決しようと試行錯誤するような授業を展開していくことで、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況にあっても、自分で課題を見だし、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるような生きる力をはぐくめるようにするための指導法の改善について考えていきました。

3. 実践の内容:

- 具体的にどのような活動やプログラムを行ったのか、「未来に触れる段階」「未来を考える段階」「未来のために行動する段階」ごとの詳細な記述してください。

今回の授業実践では、こどもたちに「問題を見いだす力」を高めてほしいというねらいのもとで、「Yomokka!」の読書ログデータを題材にし、「データの活用」の単元に取り組みました。

データを読み取り、分析したことを共有する活動を通して、日常の場面から生じた興味や疑問を解決するという「探究的な学習」です。

授業では、指標となる読書量の定義や評価方法を話し合い、グループごとに2年生に対して「Yomokka!」のプレゼンテーションを行い、その後の2年生の読書量を検証するというサイクルを2回行いました。

4. 実践の方法:

- 実践を行うためにどのような手法や教材を使用したのか、その詳細記述ください。

題材となるデータは、こどもたちにとって身近であることと、実際に集めた「生データ」であることが条件です。そこで、2年生の児童がもっと本を好きになることを目指して、「Yomokka!」の読書量を増やすことを目標に、「Yomokka!」の読書ログデータを統計データとして使用働きかけを行いました。（※）

※「Yomokka!」では、学校管理者・先生ユーザーが、各クラスの児童生徒が指定期間内に読んだ冊数・ページ数・利用時間や、利用開始時からの累積の読了冊数・読んだページ数が閲覧できます。

5. 実践の結果:

- 実践を通じて得られた結果や成果、可能であれば児童生徒の反応や変化も含めて具体的に記述してください。

学習の中で、取り組んだ結果を振り返り、考えたことを伝え合うことで、活動の改善策を考える等、さらに次の課題を見いだすという「探究的な学習」が実現し、こどもたちの中に主体的・対話的で深い学びが生まれている様子が見られました。

6. 実践の課題:

- 実践を通じて何がうまくいったのか、何が改善の余地があるのかを反省し、その内容を記述してください。特に、職場環境や児童の実態、協働を実践した教員の立場を踏まえてお書きください。

生データを用いることで児童の興味・関心に即した実践を行うことができたこと、Yomokka!を活用したことでデータの収集の時間が短縮できたことや、問題意識に即した活動を行えたことが成果として挙げられる一方、教員の教材研究が必要であるという課題も明らかになりました。

7. 今後の展望:

- 今後、協働的な学びの実践をどのように進めていくのか、課題や可能性などの展望を記述してください。

課題に挙げられている通り、今後も引き続き教材研究を行っていきたいと思います。